

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4847113号
(P4847113)

(45) 発行日 平成23年12月28日 (2011.12.28)

(24) 登録日 平成23年10月21日 (2011.10.21)

(51) Int. Cl.	F 1
B 6 5 D 5/30 (2006.01)	B 6 5 D 5/30 Z
B 6 5 D 5/24 (2006.01)	B 6 5 D 5/24 A
B 6 5 D 5/22 (2006.01)	B 6 5 D 5/22 D

請求項の数 2 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2005-345079 (P2005-345079)	(73) 特許権者	391037685
(22) 出願日	平成17年11月30日 (2005.11.30)		柳井紙工株式会社
(65) 公開番号	特開2007-145389 (P2007-145389A)		山口県熊毛郡平生町大字平生村584
(43) 公開日	平成19年6月14日 (2007.6.14)	(74) 代理人	100075410
審査請求日	平成20年8月1日 (2008.8.1)		弁理士 藤沢 則昭
		(74) 代理人	100064311
			弁理士 藤沢 正則
		(74) 代理人	100135541
			弁理士 藤沢 昭太郎
		(72) 発明者	石迫 美智子
			山口県熊毛郡平生町横割584 柳井紙工株式会社内
		審査官	渡邊 豊英

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 組立て紙箱

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

各側板及び底板を夫々の折り目により折り込んで形成した天板付又は天板無しの略直方体形状の組立て紙箱の一側板を当該一側板の底板側の端縁を折り目にして開閉自在に設け、当該一側板の左右の両端縁に折り目を介して当該各折り目により内側に折り込まれたフラップを夫々設け、当該一側板が隣接する、相対向する両側板の、当該一側板側の各側端縁に当該一側板の各フラップを差し入れて係止する鞘状の挿入部を夫々設け、上記各フラップを上記各挿入部に出し入れ自在に挿入して上記一側板を上記隣接する両側板の端縁に係止して上記底板上に立設した組立て紙箱において、

上記鞘状の各挿入部は、上記相対向する各両側板の外端縁に折り目を介して、当該紙箱を組み立てた際縦方向の長さが上記両側板と比べて短い内側板を夫々設け、当該各内側板を上記各両側板の内側に折り込んで重ねて形成し、

当該各両側板と各内側板の、上記一側板と反対側の個所を相互に貼着し、

上記一側板の外端縁に折り目を介して内側板を設け、当該内側板の左右の両端縁であって当該内側板の外端縁近くに折り目を介して係止片を夫々設け、上記内側板を一側板の内側に折り込んで重ねて貼着し、上記各係止片を各折り目により折り込んで上記一側板の両端の各フラップに重ね、

上記各フラップを上記鞘状の各挿入部に差し入れた際、上記各係止片の上縁が上記各挿入部を形成する内側板の各下端縁に当接して上記各フラップが挿入部に係止される構成としたことを特徴とする、組立て紙箱。

10

20

【請求項 2】

上記一側板の各フラップを略扇形状に設けたことを特徴とする、上記請求項 1 に記載の組立て紙箱。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、洋菓子店等において、菓子やその他の食品等の持ち運びに使用される組立て自在な紙箱に関するものである。

【背景技術】

【0002】

10

従来、洋菓子店において、ケーキなどを販売する際、持ち運びに便利な紙製の組立て箱を使用している。このような組立て紙箱においては、紙箱の上部に把手部が付いたキャリデコタイプやボックスタイプと言われるものなどがある。これらの紙箱は、利便性の観点から、いわゆる、サイドオープンと呼ばれる、主に前側面を開放してケーキ等を出し入れしている。

【0003】

具体的には、図 1 3 に示すように、底板 3 1 の左端縁に折り目を介して左側板 3 2 を設け、当該左側板 3 2 の左端縁に折り目を介して天板 3 3 を設け、当該天板 3 3 の左端縁に折り目を介して右側板 3 4 を設け、上記底板 3 1 の前後の端縁に夫々折り目を介して前後側板 3 5 を夫々設け、上記左側板 3 2 の前後の端縁に折り目を介して折り込み片 3 6 を夫々設け、上記天板 3 3 の前後の端縁に折り目を介して前後側係止板 3 7 を夫々設け、上記右側板 3 4 の前後の端縁に折り目を介して折り込み片 3 8 を夫々設けている。

20

【0004】

また、前後側係止板 3 7 の各先端には、係止片 3 7 a を夫々設け、この組立て箱を組立てる時、前後側板 3 5 に設けた各切り込み 3 5 a に差し入れる。また、上記底板 3 1 の右端縁に折り目を介して貼着片 3 9 を設け、これらの各側板及び各折り込み片を夫々の折り目により折り込み、さらに、貼着片 3 9 を右側板 3 4 に接着して組立てる紙箱 E がある。

【特許文献 1】 実用新案登録第 3 0 5 8 6 8 1 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

30

【0005】

しかしながら、この組立て紙箱 E では、図 1 4 に示すように、当該紙箱の前側係止板 3 7 に当たる個所を開いて中にケーキ等を入れた後、左右の折り込み片 3 6、3 8 を閉じ、前側板 3 5、前側係止板 3 7 を閉じ、前側係止板 3 7 の先端の係止片 3 7 a を前側板 3 5 の切り込み 3 5 a に入れた際、この前側係止板 3 7 の係止片 3 7 a が左右の折り込み片 3 6、3 8 を内側方向へ押し、中に入れられたケーキ等と接触して当該ケーキ等を傷付けることがあった。

【0006】

そこで、この発明は、組立て紙箱において、当該紙箱の一側面を容易かつ確実に開閉でき、さらに、中に入れられたケーキ等を傷つけることの無い組み立て紙箱を提供するものである。

40

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項 1 の発明は、各側板及び底板を夫々の折り目により折り込んで形成した天板付又は天板無しの略直方体形状の組立て紙箱の一側板を当該一側板の底板側の端縁を折り目に介して開閉自在に設け、当該一側板の左右の両端縁に折り目を介して当該各折り目により内側に折り込まれたフラップを夫々設け、当該一側板が隣接する、相対向する両側板の、当該一側板側の各側端縁に当該一側板の各フラップを差し入れて係止する鞘状の挿入部を夫々設け、上記各フラップを上記各挿入部に出し入れ自在に挿入して上記一側板を上記隣接する両側板の端縁に係止して上記底板上に立設した組立て紙箱において、上記鞘状の各挿

50

入部は、上記相対向する各両側板の外端縁に折り目を介して、当該紙箱を組み立てた際縦方向の長さが上記両側板と比べて短い内側板を夫々設け、当該各内側板を上記各両側板の内側に折り込んで重ねて形成し、当該各両側板と各内側板の、上記一側板と反対側の個所を相互に貼着し、上記一側板の外端縁に折り目を介して内側板を設け、当該内側板の左右の両端縁であって当該内側板の外端縁近くに折り目を介して係止片を夫々設け、上記内側板を一側板の内側に折り込んで重ねて貼着し、上記各係止片を各折り目により折り込んで上記一側板の両端の各フラップに重ね、上記各フラップを上記鞘状の各挿入部に差し入れた際、上記各係止片の上縁が上記各挿入部を形成する内側板の各下端縁に当接して上記各フラップが挿入部に係止される構成とした組立て紙箱とした。

【0008】

10

請求項2の発明は、上記一側板の各フラップを略扇形状に設けた上記請求項1に記載の組立て紙箱とした。

【発明の効果】

【0012】

請求項1の発明によれば、紙箱の一側板を開閉自在に設け、当該一側板の左右の両端縁にフラップを夫々設け、当該一側板が隣接する、相対向する両側板に鞘状の挿入部を夫々設けたので、当該一側板を折り目により回転させ、当該一側板の両側の各フラップの先端縁が挿入部内に少し入れれば、フラップ自体がガイドとなって、その後確実に挿入部内に入り、挿入部内に係止される。その結果、各フラップを各挿入部から容易に入れることが出来、非常に便利である。また、紙箱内側にフラップが挿入されるものではないので、紙箱内に収められたケーキ等が傷つく恐れがなく、安心して、ケーキ等を持ち運ぶことが出来る。

20

【0013】

また、上記鞘状の挿入部として、上記相対向する各両側板の外端縁に当該紙箱を組み立てた際縦方向の長さが上記両側板と比べて短い内側板を夫々設け、当該各内側板を上記各両側板の内側に折り込んで重ね、当該各両側板と各内側板の、上記一側板と反対側の個所を貼着したので、簡単な構成及び少ない材料で鞘状の挿入部を形成することが出来、経済的である。

【0014】

さらに、上記一側板の内側板の左右の両端縁に係止片を夫々設け、上記各フラップを上記鞘状の各挿入部に差し入れた際、上記各係止片が上記内側板の各下端縁に当接して上記各フラップが挿入部に係止されるようにしたので、無闇に一側板が開くことがなく、紙箱として信頼出来、安心してケーキ等を入れることが出来る。

30

【0015】

請求項2の発明によれば、上記一側板等の各フラップを略扇形状に設けたので、当該フラップを上記鞘状の挿入部から円滑に出し入れ出来、紙箱の一側板等の開閉を極めて容易に行うことが出来る。その結果、当該紙箱からより円滑かつ容易にケーキ等を出し入れ出来るものである。

【発明を実施するための最良の形態】

【0017】

40

各側板及び底板を夫々の折り目により折り込んで形成した天板付又は天板無しの直方体形状の組立て紙箱において、当該紙箱の一側板を当該一側板の底板側の端縁を折り目にして開閉自在に設け、当該一側板の左右の両端縁に折り目を介して当該各折り目により内側に折り込まれたフラップを夫々設ける。

【0018】

また、当該一側板が隣接する、相対向する両側板の、当該一側板側の各側端縁に当該一側板の各フラップを差し入れて係止する鞘状の挿入部を夫々設け、当該一側板の各フラップを上記各挿入部に着脱自在に差し入れて、当該一側板を上記折り目により閉じたことにより、紙箱内側にフラップが挿入されず、紙箱内に収められたケーキ等が傷つく恐れがなく、安心して、ケーキ等を持ち運ぶことが出来る。

50

【実施例 1】

【0019】

以下、この発明の実施例 1 を図に基づいて説明する。

この発明の実施例 1 の組立て紙箱 A（以下、「紙箱 A」と言う。）は、図 3 に示すように、天板部を開口させており、この天板部に、別途、設けた蓋体を着脱自在とした扁平な直方体から成る。

【0020】

図 2 に示すのは、この紙箱 A の展開図であり、正形状の底板 1 の左端縁に折り目 a を介して左側板 2 を設け、この左側板 2 の左端縁に折り目 b を介して左内側板 3 を設けている。この左内側板 3 の後側の左側の角部を、斜めに切り欠いて傾斜端縁 3 a としている。また、この左内側板 3 の切り欠いて短くなった左端縁に折り目 c を介して、細幅の折り込み左側片 4 を設けている。この折り込み左側片 4 の前端の角部を斜めに切り欠いている。

10

【0021】

同様に、底板 1 の右端縁に折り目 d を介して右側板 5 を設け、この右側板 5 の右端縁に折り目 e を介して、右内側板 6 を設け、この右内側板 6 の後端の右側の角部を斜めに切り欠いて傾斜端縁 6 a としている。また、この右内側板 6 の切り欠いて短くなった右端縁に折り目 f を介して、細幅の折り込み右側片 7 を設けている。この折り込み右側片 7 の前端の角部を斜めに切り欠いている。

【0022】

また、底板 1 の後端縁に折り目 g を介して後側板 8 を設け、この後側板 8 の後端縁に折り目 h を介して後内側板 9 を設け、この後内側板 9 の後端縁に折り目 i を介して細幅の折り込み後側片 10 を設けている。また、上記後内側板 9 の左右の両端縁に折り目 j を介して、三角形の折り込み小片 11 を夫々設けている。これらの折り込み片 11 は、上記折り目 j 側の後側角部が直角な三角形形状である。

20

【0023】

上記後側板 8 の左右の両端縁に折り目 k を介して変形四角形状の連結折り込み片 12 を夫々設け、これらの各連結折り込み片 12 の前端縁は、上記左側板 2 又は右側板 5 の各後端縁と折り目 l、m を介して接続されており、これらの各連結折り込み片 12 に、上記底板 1 の後端縁の折り目 g の各端部から連結折り込み片 12 の外側角部に向けて対角線折り目 n を夫々設けている。

30

【0024】

上記底板 1 の前端縁に折り目 o を介して前側板 13 を設け、この前側板 13 の前端縁に折り目 p を介して前内側板 14 を設け、この前内側板 14 の前端縁に折り目 q を介して細幅の折り込み前側片 15 を設けている。また、折り込み前側片 15 の先端縁 15 a の左右の角部を切り欠いている。さらに、上記前側板 13 の左右の両端縁に折り目 r を介して、上記折り目 o の各端部を中心とした略扇形状のフラップ 16 を夫々設けている。

【0025】

次に、この様な紙箱 A を組立てる。

上記折り込み左側片 4 を折り目 c により外側（底板 1 と反対側、以下、同じ）に折り込み、図 4 に示すように、上記左内側板 3 を折り目 b により上記左側板 2 上に折り畳んで重ね、この状態で左内側板 3 と左側板 2 の後部を貼り合わせる。同様に、上記折り込み右側片 7 を折り目 f により外側に折り込み、上記右内側板 6 を折り目 e により上記右側板 5 上に折り畳んで重ね、この状態で右内側板 6 と右側板 5 の後部を貼り合わせる。

40

【0026】

これらの様に、一体に成った上記左側板 2 と左内側板 3 を当該底板 1 側の折り目 a により折り込んで底板 1 上に立設させ、一体に成った右側板 5 と右内側板 6 を上記底板 1 側の折り目 d により折り込んで底板 1 上に立設させる。この時、折り込み左側片 4 及び折り込み右側片 7 は、底板 1 上に当接している。

【0027】

この様にして、上記相対向する左右の両側板を設け、上記左側板 2 と左内側板 3、及び

50

右側板 5 と右内側板 6 を夫々重ねて形成した上記両側板の前側板 13 側の側端縁内側に、図 1 に示すように、当該前側板 13 の上記各フラップ 16 を差し入れる鞘状の挿入部 17 を夫々形成している。

【0028】

次に、上記折り込み後側片 10 を折り目 i により外側に略直角に折り込み、上記後内側板 9 の両端の各折り込み小片 11 を折り目 j により外側に折り込み、上記後側板 8 の各連結折り込み片 12 を各折り目 k、l、n、k、m、n により内側に折り込みつつ、上記後側板 8 を底板 1 側の折り目 g により内側に折り込んで底板 1 上に立設し、上記後内側板 9 を、折り目 h により上記後側板 8 両端の各連結折り込み片 12 の上から後側板 8 の内側に折り込んで、上記折り込み後側片 10 を上記底板 1 上に当接させる。

10

【0029】

この時、図 5 に示すように、折り込み後側片 10 が略直角に折り込まれているので、当該折り込み後側片 10 の左側部は、底板 1 の後端縁の折り目 g と上記折り込み左側片 4 の後端縁 4a との間に設けられた凹部に嵌合され、同様に、折り込み後側片 10 の右側部は、底板 1 の後端縁の折り目 g と上記折り込み右側片 7 の後端縁 7a との間に設けられた凹部に嵌合される。

【0030】

この折り込み後側片 10 の左右の先端縁 10a は、上記折り込み左側片 4 の後端縁 4a と折り込み右側片 7 の後端縁 7a に突き合わされて係止され、上記後内側板 9 の両端の各折り込み小片 11 が上記左内側板 3 又は右内側板 6 の夫々切り欠いた角部分に嵌合し、当該各折り込み小片 11 の傾斜端縁 11a が上記左内側板 3 又は右内側板 6 の各傾斜端縁 3a、6a に突き合わされて夫々係止される。

20

【0031】

折り込み前側片 15 を折り目 q により外側に略直角に折り込み、前内側板 14 を折り目 p により前側板 13 上に折り込んで、前内側板 14 と前側板 13 を貼り付ける。また、前側板 13 の左右両端の各フラップ 16 を折り目 r により夫々略直角に折り上げる（図 1 参照）。

【0032】

この状態で、図 6 に示すように、前側板 13 と前内側板 14 を底板 1 側の折り目 o により折り上げて、この前側板 13 の左右の各フラップ 16 を左右の両側板の挿入部 17 の中に差し入れる。この時、前側板 13 を折り目 o を軸として回転させるだけで、各フラップ 16 の先端縁が挿入部 17 内に少し入ると、当該フラップ 16 自体がガイドとなり、容易に挿入部 17 内に差し込まれ、前内側板 14 と一体となった前側板 13 は、底板 1 上に立設する。

30

【0033】

また、折り込み前側片 15 が略直角に折り込まれているので、底板 1 上に重合し、当該折り込み前側片 15 の左側部は、底板 1 の前端縁の折り目 o と上記折り込み左側片 4 の前端縁 4b との間に形成された凹部に嵌合され、同様に、折り込み前側片 15 の右側部は、底板 1 の前端縁の折り目 o と上記折り込み右側片 7 の前端縁 7b との間に形成された凹部に嵌合される。これにより、この折り込み前側片 15 の先端縁 15a の左右は、上記折り込み左側片 4 の前端縁 4b と折り込み右側片 7 の前端縁 7b に突き合わされて夫々係止される。

40

【0034】

この様にして、組立てられた紙箱 A に、例えば、図 6 に示すように、前側板 13 を開閉して、図 3 に示すように、トレー 18 を利用してケーキを出し入れする。そして、図 7 に示すように、別途設けた紙蓋 D を被せて、当該紙蓋 D 及び有底の紙箱 A から形成される、いわゆる、ツーピース形態の紙箱として使用する。

【実施例 2】

【0035】

以下、この発明の実施例 2 を図に基づいて説明する。

50

この発明の実施例 2 の紙箱 B は、図 8 及び図 9 に示すように、開閉自在な天板を設けていること、前側板の構成が異なる外は、上記実施例 1 とほぼ同様の構成である。よって、上記実施例 1 と異なる構成について説明する。

【0036】

具体的に説明すると、この実施例 2 の紙箱 B は、後側板 8 の後端縁に折り目 h を介して底板 1 と同形同大の開閉天板 20 を設けており、この開閉天板 20 は、この折り目 h により開閉自在に設けられており、この開閉天板 20 の後端縁に折り目 s を介して細幅の折り込み片 21 を設けている。また、開閉天板 20 の後端縁の折り目 s の中央部分には、前側板 13 の前端縁の中央部分に折り目 p を介して設けられた係止片 22 を差し入れる切り込み 20a を設けている。

10

【0037】

この紙箱 B を組立てる。

各側板及び各折り込み片を夫々の折り目により折り込んで組立てるのは、上記実施例 1 と同様である。そして、図 9 に示すように、左右の両側板を立設した後、後側板 8 の左右の連結折り込み片 12 を各折り目 k、l、n、k、m、n により内側に折り込みつつ、その上から、上記後側板 8 を底板 1 側の折り目 g により内側に折り込んで底板 1 上に立設し、上記開閉天板 20 を折り目 h により底板 1 側に折り込んで、上記折り込み片 21 を折り目 s により内側に折り込む。

【0038】

続いて、前側板 13 の係止片 22 を折り目 p により内側に折り込み、前側板 13 の左右両端の各フラップ 16 を折り目 r により夫々略直角に折り上げる。この状態で、前側板 13 を底板 1 側の折り目 o により折り上げて、この前側板 13 の左右の各フラップ 16 を左右の両側板の挿入部 17 の中に差し入れる。この時、前側板 13 を折り目 o を軸として回転させるだけで、フラップ 16 の先端縁が挿入部 17 内に少し入ると、当該フラップ 16 自体がガイドとなり、容易に挿入部 17 内に差し込まれる。これにより、前側板 13 は、底板 1 上に立設し、開閉天板 20 の折り込み片 21 を前側板 13 の内側に挿入し、係止片 22 を開閉天板 20 の切り込み 20a に入れて開閉天板 20 を閉じる。

20

【実施例 3】

【0039】

続いて、この発明の実施例 3 を図に基づいて説明する。

30

この発明の実施例 3 の紙箱 C は、図 10 及び図 11 に示すように、左内側板及び右内側板を幅狭なものとして設け、折り込み左側片や折り込み右側片を設けていない。また、一旦、挿入部に差し入れられたフラップ 16 が容易に開かないようにストッパーとして係止片を前内側板に設けている。他の構成は、上記実施例 1 とほぼ同様の構成である。よって、上記実施例 1 と異なる構成について説明する。

【0040】

この実施例 3 の紙箱 C は、左側板 2 の左端縁に折り目 b を介して当該左側板 2 と比べ幅狭な、すなわち、図 10 における左右方向の幅が狭い左内側板 24 を設けており、この左内側板 24 の後端の角部を一定長斜めに、また、残りを水平に切り欠いて端縁 24a を形成している。右内側板 25、端縁 25a も同様に設けられている。また、この紙箱 C では、折り込み後側板は設けられておらず、後内側板 26 両端の折り込み小片 27 の形状も三角形状ではなく、台形状である。

40

【0041】

そして、前内側板 28 の左右の両端縁の各前端部に折り目 t を介して、夫々左右方向に長細く突出した係止片 29 を設けている。また、前内側板 28 の前端縁には折り込み前側片は設けていない。

【0042】

この紙箱 C を組立てる。

各側板及び各折り込み片を夫々の折り目により折り込んで組立てるのは、上記実施例 1 とほぼ同様である。図 10 及び図 11 に示すように、左右の内側板 24、25 を各折り目 b

50

、eにより、夫々左右側板2、5上に折り込んで重ね、後部を貼着して靴状の挿入部30を形成する。さらに、後内側板26の両端の各折り込み小片27を折り目uにより外側に折り込み、上記後側板8の各連結折り込み片12を各折り目k、l、n、k、m、nにより内側に折り込みつつ、上記後側板8を底板1側の折り目gにより内側に折り込んで底板1上に立設し、上記後内側板26を、折り目hにより上記後側板8両端の各連結折り込み片12の上から後側板8の内側に折り込む。

【0043】

上記後内側板26の両端の各折り込み小片27が、上記左内側板24又は右内側板25の夫々切り欠いた角部分に嵌合し、当該各折り込み小片27の端縁27aが上記左内側板24又は右内側板25の各端縁24a、25aに突き合わされて夫々係止される。

10

【0044】

また、前内側板28を折り目pにより前側板13上に折り込んで、前内側板28と前側板13を貼り付ける。さらに、前側板13の左右両端の各フラップ16を折り目rにより内側に直角に折り上げ、前内側板28の各係止片29を折り目tにより外側に直角に折り上げる。これにより、各係止片29は各フラップ16の内側に重なる。

【0045】

この状態で、図11に示すように、前側板13と前内側板28を底板1側の折り目oにより折り上げて、この前側板13の左右の各フラップ16を左右の両側板の挿入部30の中に差し入れる。この時、前側板13を折り目oを軸として回転させるだけで、各フラップ16の先端縁が挿入部30内に少し入ると、当該フラップ16自体がガイドとなり、容易に挿入部30内に差し込まれ、前内側板28と一体となった前側板13は、底板1上に立設する。また、各係止片29は、一旦、各フラップ16と共に各挿入部30内に入るが、前側板13が底板1の端縁に立設すると、図12に示すように（図12においては、紙箱Cの左側のみを示す）、各係止片29は各挿入部30から外れ、左右の内側板24、25の下凹部に入る。

20

【0046】

そして、一旦、各フラップが挿入部30内に差し入れられた後は、各フラップ16が開こうとすると、図12に示すように、各係止片29が左右の内側板24、25の下端縁24a、25aに係止されて無闇に開かないようになっている。しかしながら、開く際には、少し力を入れて前側板13を回転させれば、開くようになっている。

30

【0047】

なお、上記実施例1及び3において、天板部を開口させた扁平な直方体から成る紙箱A、Cを使って説明し、また、上記実施例2においては、開閉自在な開閉天板20を設けた紙箱Bを使って説明しているが、この発明の構成を設ける紙箱としては、この発明の構成を設けることが出来る紙箱であれば、何れのものでもよい。また、紙箱A、B及びCを直方体形状としているが、紙箱としては、上方又は下方へ行くほど開いたテーパ形状に設けたものでもよい。

【0048】

また、上記実施例1において、フラップ16の形状を略扇形状に設けているが、フラップの形状としては、略扇形状に限るものではなく、挿入部17内に容易に出し入れ出来るものであるならば、舌片状や略方形状などでもよく、他の形状のものでも良い。さらに、後内側板8側の折り込み小片11、後側板8の連結折り込み片12、左内側板3と右内側板6の後部の傾斜端縁3a、6a、折り込み左側片4と折り込み右側片7の前後の端縁4a、4b、7a、7b、折り込み前側片15の先端縁15aの左右の角部の切り欠き部の構成などは、必ずしも必要とするものではなく、これらの構成のうち何れかを選択して設けてもよく、また、設けなくとも良い。さらに、組立てられた紙箱A内にケーキを出し入れするのにトレー18を使用しているが、トレー18については、必ずしも使用する必要はない。

40

【0049】

さらに、上記実施例2において、開閉天板20を設けた紙箱Bとして、後側板8、連結

50

折り込み片 1 2、開閉天板 2 0、切り込み 2 0 a、折り込み片 2 1、前側板 1 3、係止片 2 2 を設けたものを使用した。開閉天板 2 0 を設けた紙箱 B としては、この構成に限るものではなく、この発明の構成を設けることが出来るものであるならば、他の構成からなる紙箱でももちろん良い。

【0050】

上記実施例 3 において、左右方向に長細く突出した係止片 2 9 を設けているが、係止片としては、必ずしも長細く突出させる必要はなく、短い突起のようなものでも良い。また、各フラップ 1 6 が各挿入部 3 0 内に差し込まれる際、当該各フラップ 1 6 の内側に重ねられた各係止片 2 9 が、各フラップ 1 6 と共に各挿入部 3 0 内に入るとしているが、状況によっては、各係止片 2 9 は、各フラップ 1 6 と共に各挿入部 3 0 内に入らず、各挿入部 3 0 より底板 1 側の位置で回転して左右の内側板 2 4、2 5 の下の凹部に入る場合もある。

10

【図面の簡単な説明】

【0051】

【図 1】この発明の実施例 1 の紙箱の組立て途中を示す斜視図である。

【図 2】この発明の実施例 1 の紙箱の展開図である。

【図 3】この発明の実施例 1 の紙箱を組み立て、中にケーキを載置するトレーを入れた状態の斜視図である。

【図 4】この発明の実施例 1 の紙箱の後側板側の構成を示す一部斜視図である。

【図 5】この発明の実施例 1 の紙箱の後側板側を組み立てた状態の一部斜視図である。

20

【図 6】この発明の実施例 1 の紙箱を組み立て、前側板を閉じつつある状態の斜視図である。

【図 7】この発明の実施例 1 の紙箱の開口部である天板部に、別途設けた紙蓋を被せた状態の斜視図である。

【図 8】この発明の実施例 2 の紙箱の展開図である。

【図 9】この発明の実施例 2 の紙箱の組立て途中を示す斜視図である。

【図 10】この発明の実施例 3 の紙箱の展開図である。

【図 11】この発明の実施例 3 の紙箱の組立て途中を示す斜視図である。

【図 12】この発明の実施例 3 の紙箱の前内側板の係止片が左内側板の下端縁に係止されている状態を示す斜視図である。

30

【図 13】従来の紙箱の展開図である。

【図 14】従来の紙箱の組立て途中を示す斜視図である。

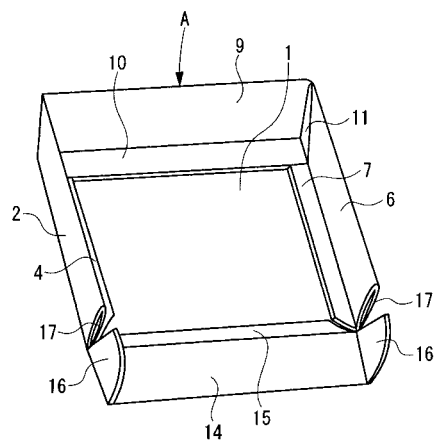
【符号の説明】

【0052】

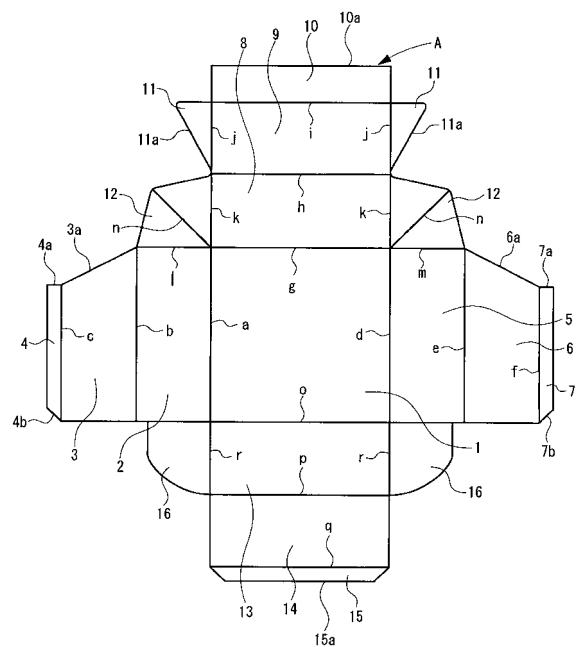
A	紙箱	B	紙箱
C	紙箱		
1	底板	2	左側板
3	左内側板	5	右側板
6	右内側板	1 3	前側板
1 6	フラップ	1 7	挿入部
2 4	左内側板	2 5	右内側板
2 9	係止片	3 0	挿入部

40

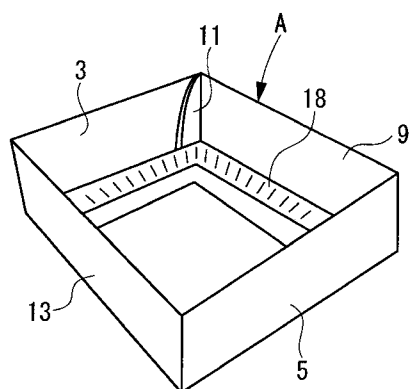
【図 1】



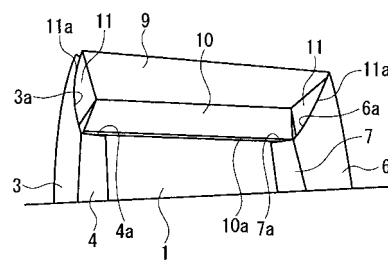
【図 2】



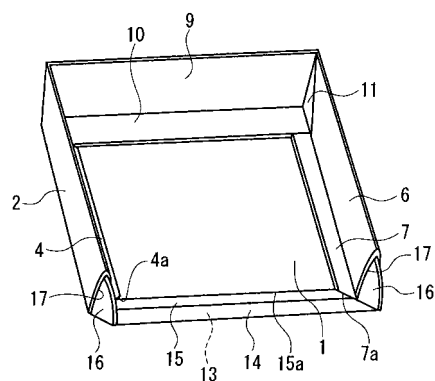
【図 3】



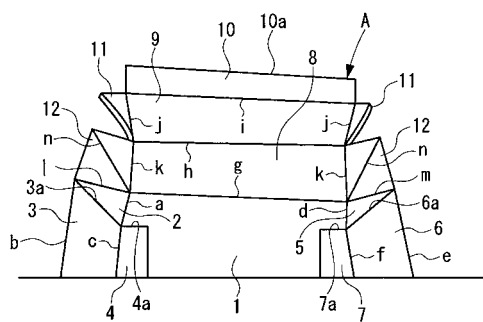
【図 5】



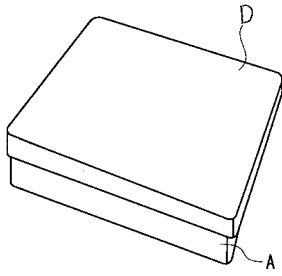
【图 6】



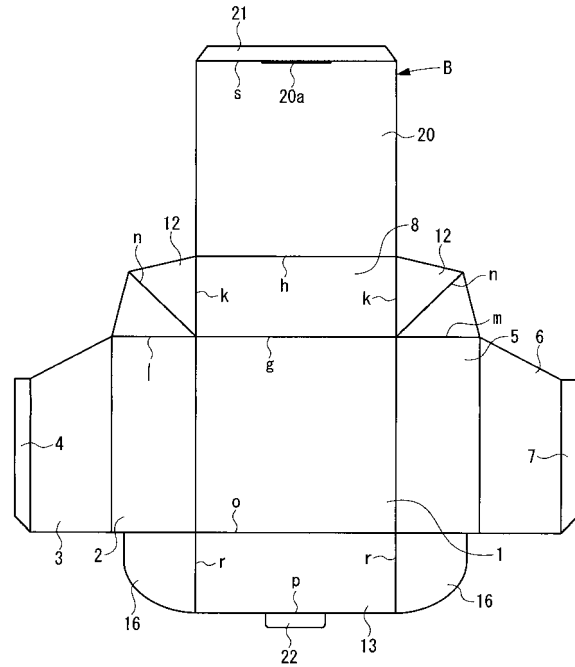
【图 4】



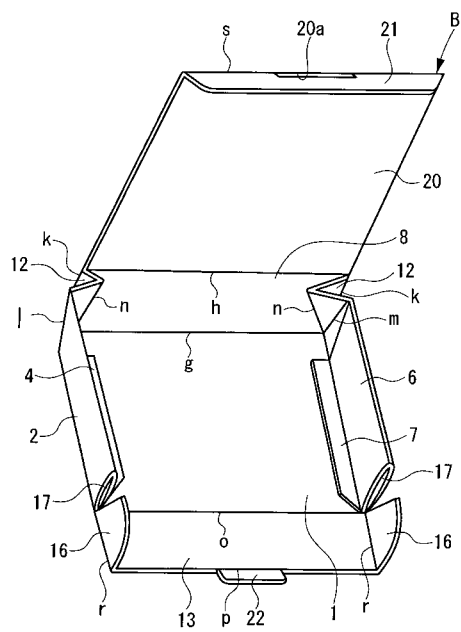
【図 7】



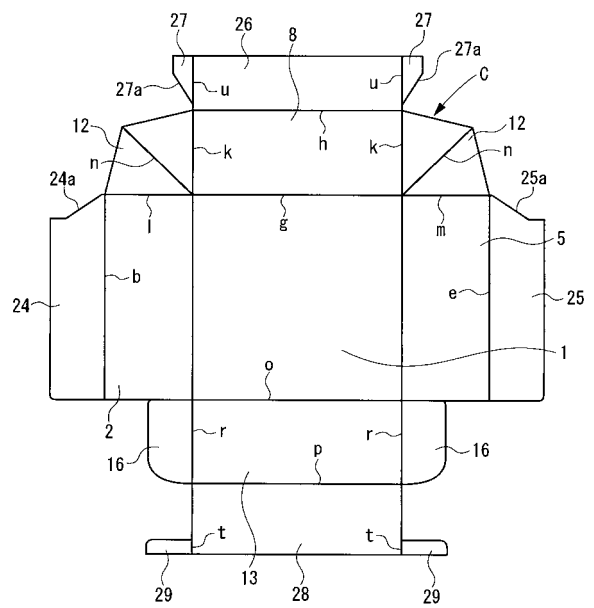
【図 8】



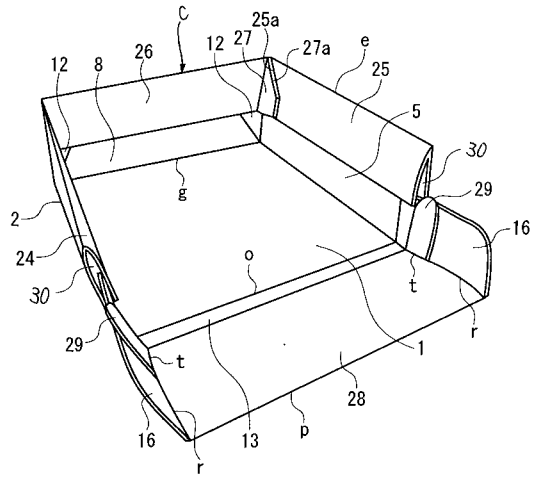
【図 9】



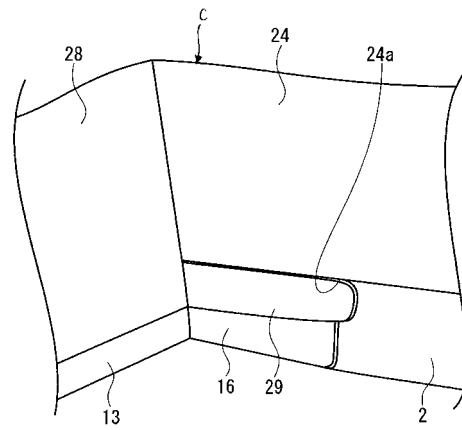
【図 10】



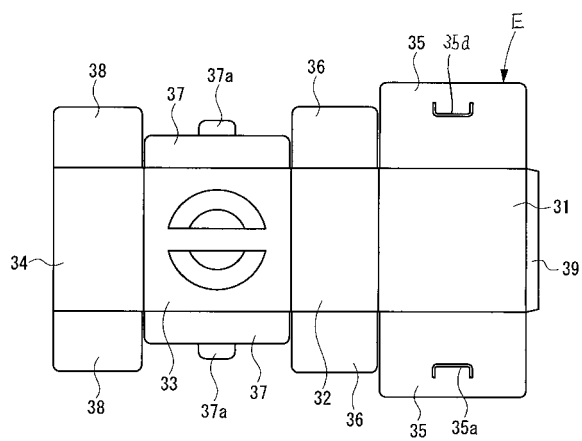
【図 1 1】



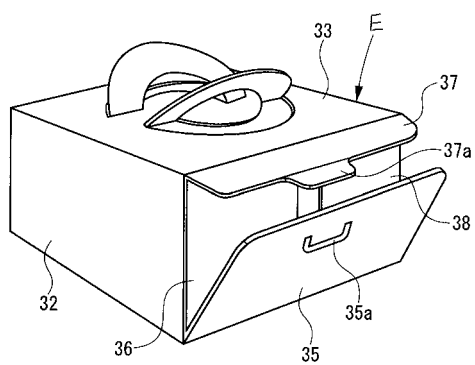
【図 1 2】



【図 1 3】



【図 1 4】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平11-348963 (JP, A)
実開昭62-008910 (JP, U)
実公第023801 (大正15年) (JP, Y1T)
実開昭58-041318 (JP, U)
実開昭55-012495 (JP, U)
実開昭50-153030 (JP, U)
特開2002-104386 (JP, A)
実開昭58-065214 (JP, U)
特開平09-169332 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 5/00-5/76